

# 県内におけるハンタウイルス感染症(腎症候性出血熱)の実態調査

○西田 倫子、水流 奈己、新田 真依子  
宮原 加奈、三浦 美穂、吉野 修司

## 1 はじめに

ファーストポートとは、外国クルーズ船等が国内で最初に寄港する港として検疫体制等が整備された港のことで、当県南部に位置する油津港は、2020年1月、検疫港以外では全国で初めてファーストポート化を実現した。当所は、ファーストポートの整備条件のひとつである港湾衛生業務の総合調整を担当しているが、2021年、同港で捕獲されたネズミにおいて、港湾衛生調査の対象であるハンタウイルス抗体陽性の疑い事例が確認された。その際、近年国内ではハンタウイルス感染症の発生状況はほとんど調査されておらず、国内におけるヒトのハンタウイルス感染症の検査体制は十分ではないと考えられた。

ハンタウイルスは感染症法で三種病原体に分類されているため、検査に必要な抗原等の入手・管理が困難であり、国内では市販のヒト用検査キットがないこともその一因と考えられる。

当所では、以前より国立感染症研究所と連携し、ハンタウイルス同様ネズミを保菌動物とし、臨床症状がハンタウイルス感染症のひとつである腎症候性出血熱に類似しているレプトスピラ症疑い患者の検体を収集・保管しているが、その多くは検査でレプトスピラ症陰性と判明している。本研究では、レプトスピラ症陰性事例の検体を用い、ハンタウイルス感染症の発生状況を調査すること、ハンタウイルスの検出系を確立することで、ヒトでの疑い事例発生に備えることを目的とする。

## 2 対象と方法

2012年以降、当所に保管してあるレプトスピラ症疑い事例の検体(血清・血漿・尿)を用い、ハンタウイルスの遺伝学的検査及び血清学的検査を行う。陽性例に関しては、疫学的な関連調査を実施する。

## 3 調査研究の効果

### 1) 県民への啓発

県内のハンタウイルス感染症の発生状況を調査することで、公衆衛生上重要な感染症として、県民に注意喚起を図ることができる。

### 2) 臨床への貢献

これまで不明のままであった症例を調査し、得られた情報を臨床現場にフィードバックすることができる。

### 3) ハンタウイルス感染症疑い事例発生時対策

ハンタウイルスの検出系を確立することで、ヒトでの疑い事例が発生した際に迅速に対応することが可能になる。

## 参考文献

- 1) 有川二郎. げっ歯類媒介性人獣共通感染症としてのハンタウイルス感染症. ウイルス 2003; 53(1): 63-69.
- 2) Hiroaki Kariwa, Kumiko Yoshimatsu, Koichi Araki, et al. Detection of Hantaviral Antibodies among Patients with Hepatitis of Unknown Etiology in Japan. Microbiol. Immunol 2000 ; 44(5) : 37-362.